

庄内メロントップセールス 東京と大阪でPRと消費拡大を目的に

出荷最盛期を迎える当JA産メロンのPRと消費拡大を図ることを目的に「メロントップセールス」を7月7日に東京都の東京荏原青果(株)で、7月20日には大阪市の大果大阪青果(株)で開催しました。

大果大阪青果(株)のトップセールスには、当JAの阿部茂昭組合長の他、丸山至酒田市長、JA全農山形が参加し、仲買人や市場関係者を前に今年産メロンの特徴や生育状況、出荷時期について説明しました。

はじめに生産地を代表して壇上上がった丸山酒田市長は「酒田市庄内砂丘でどこにも負



▲大果大阪青果でメロンをPRする阿部組合長

けないおいしいメロンに今年も仕上がった」とPR。阿部組合長も「6月下旬から平年を上回る気温となり、糖度も十分のつたメロンができあがった。関西圏の皆さんにたくさん食べていただきたい」と力強くPRしトップセールスしました。

会場には「アンデスメロン」と赤肉系の「ルピアレッド」の試食も用意され、甘い香りが漂う中、仲買人たちは今年産メロンの味を確かめていました。

当JA管内では今年度、149人が約65haで栽培。8月上旬までに24万ケース、1220トンの出荷を見込んでいます。



▲東京荏原青果でPRする岡部経済常務(写真中央)

今年も高品質なトルコギキョウを ほ場巡回で管理ポイント確認



▲ほ場巡回で管理ポイントを確認しました

夏切りトルコギキョウの出荷本番に向け、現在の生育状況を把握し適切な栽培管理で高品質の花き生産を図ろうと、当JA花き部会トルコギキョウ専門部は6月29日、夏切りトルコギキョウのほ場巡回と出荷販売検討会を開きました。生産者や酒田農業技術普及課の担当者など13人が参加しました。

ほ場巡回は、部会員の酒田市のハウス2カ所を巡回し、生育状況を確認しました。夜温の低さが影響し、生育は少し遅れ気味ですが品質は良好。梅雨明け後の高温時期に備えるため、ハウス内の温度管理方法の説明を



▲品質良好なトルコギキョウをお届けします

受け、今後の管理ポイントを確認しました。

ほ場巡回終了後は当JA本所で出荷販売検討会を行いました。年間の出荷計画などについて話し合い、(株)世田谷花きの職員よりトルコギキョウの最新動向について説明を受けました。

当JAでは、生産者23人が80aでトルコギキョウを栽培しています。夏切りの出荷は6月下旬から始まり、8月下旬ころまで。その後は秋切りに切り替わり10月下旬まで出荷が続きます。主に関東方面を中心に出荷され、夏切りと秋切り合わせて22万本の出荷を見込んでいます。